日 食 旅 行 直 前 情 報

編 集 部

★成田空港検疫所よりの情報

コロンビアでのデング熱の発生

大雨に引き続き、デング熱と黄熱の流行が発生。11月２日現在、デング熱患者数142名、うち17名がデング出血熱症状を呈し、６名が死亡（出血熱での致死率は35％）

コロンビアでの黄熱病の発生状況

コロンビアでは1981～1997年の間に70例の報告があるが、入国に際し、黄熱流行地域からの旅行者に対しても予防接種の証明書は必要ではない。ただし、コロンビア内の特定地域への旅行者は、予防接種を受けることが勧められる。

★厚生省生活衛生局食品保健課　検疫所業務管理室よりの情報

＜ベネゼエラ＞

１．感染症の流行状況

ベネゼエラでは赤痢などの法定伝染病、サルモネラ等の食中毒等の消化器系疾患、肝炎などが発生しています。また、ブラジル、コロンビアとの国境付近のジャングルでは、マラリアを始めとする熱帯地域特有の風土病等が流行しています。

現在、流行している感染症はおおよそ次の通りです。

消化器系疾患　　コレラ、細菌性赤痢、食中毒、アメーバ赤痢、ジアルジア症（ランブル鞭毛虫症）

その他の疾患　　マラリア、デング熱、黄熱、ウイルス性肝炎、狂犬病、寄生虫疾患

ベネゼエラは5～11月までが雨季、12～4月が乾季に分かれる熱帯性気候が主ですが、標高差などによっても気候が異なります。首都カラカスは、920 mの高地にあるため一年を通して夏の軽井沢といったところで、非常に過ごしやすい気候になっており、カリブ海沿岸のマラカイボも気温は高いですが、比較的乾燥しています。そのため、どちらの地域も注意しなければならない病気は少なく、消化器系の感染症やウイルス性肝炎程度です。最も注意しなければならない地域は、ブラジル、コロンビアの国境付近とオリノコ川流域で、この地域には消化器系感染症のほか、黄熱、マラリア、デング熱など蚊によって媒介される病気やサシガメ（カメムシの一種）の吸血によって起こるシャーガス病、サシチョウバエの吸血によって引き起こされるリーシュマニア症など日本では聞き慣れない熱帯地方特有な風土病が報告されています。

２．ベネゼエラでの病気予防法

旅行に出かけると、どうしても疲れや飲み過ぎ、食べ過ぎで知らない間に抵抗力が落ちてしまいます。この様な場合、体に病原菌が侵入すると病気になってしまいます。

ベネゼエラには様々な感染症や風土病がありますが、消化器系の感染症であれば食べ物に注意し、体調を整えておくだけで、かなり病気予防が出来ます。

しかし、マラリアを始めとする熱帯地域特有の病気が流行する地域に出掛ける際には充分な注意が必要です。

３．マラリア情報(WHO)

年間を通して次の農村地帯に三日熱マラリアが存在しています。

Amazonas, Anzoateg-ui, Apure, Barinas, Bolivar, Delta, Amacuro, Merida, Monagas, Portuguesa, Sucre, Ta'ch-ira, Zulia の各州。

予防薬であるクロロキンが効かない熱帯熱マラリアの報告があり、予防薬としては、メフロキンの服用が勧められています。

＜コロンビア＞

１．感染症の流行状況

コロンビアではコレラや赤痢などの法定伝染病、サルモネラ等の食中毒等の消化器系疾患、肝炎が発生しています。また、ベネゼエラ、ブラジル、ペルーとの国境付近のジャングルではマラリアを始めとする熱帯地域特有の風土病等が蔓延しています。

現在、流行している感染症はおおよそ次の通りです。

消化器系疾患　　コレラ、細菌性赤痢、食中毒、アメーバ赤痢、ジアルジア症（ランブル鞭毛虫症）

その他の疾患　　マラリア、デング熱、黄熱、ウイルス性肝炎、狂犬病、性感染症(エイズを含む)、寄生虫疾患、シャーガス病、リーシュマニア症

コロンビアは熱帯地域に位置していますが、標高差(高度差)によって気候が全く異なります。首都ボゴタは標高 2,600 mにあることから一年中日本の秋のような気候で消化器系の感染症や肝炎、狂犬病などが発生していますが、発生数は多くはありません。

しかし、南東に広がる熱帯ジャングルやカリブ海、太平洋に面した地域では熱帯性気候のため、流行する病気は様々です。海岸地方は消化器系の感染症が多く発生していますし、デング熱など蚊によって媒介される病気やサシガメ(カメムシの一種)の吸血によって起こるシャーガス病の流行もあります。また、熱帯ジャングルでは蚊から感染する黄熱、マラリアやサシチョウバエの吸血によって引き起こされるリーシュマニア症など日本では聞き慣れない熱帯地方特有の風土病も報告されています。

２．コロンビアでの病気予防法

旅行に出かけると、どうしても疲れや飲み過ぎ、食べ過ぎで知らない間に抵抗力が落ちてしまいます。この様な場合、体に病原菌が侵入すると病気になってしまいます。

コロンビには様々な感染症や風土病がありますが、消化器系の感染症であれば食べ物に注意し、体調を整えておくだけで、かなり病気予防が出来ます。

しかし、マラリアを始めとする熱帯地域特有の病気が多数流行する地域に出掛ける際には充分な注意が必要です。

３．マラリア情報(WHO)

年間を通して 800m以下の次の農村地帯に存在しています。

Uraba(Antioquia と Choco Dep)、BajoCauca- Nechi(Antioquia と Cordoba Dep)、Magdalena 川の中流渓谷、Catatumbo(Norte de Santander Dep)、太平洋沿岸地帯、東部の平野部(Orinoquia)、Amazonia。予防薬であるクロロキンが効かない熱帯熱マラリアが報告されており、予防薬としては、メフロキンの服用が勧められています。

＊服用については副作用等に注意が必要です。

＜カリブ海諸国（ハイチ、ジャマイカ、プエルトリコ)＞

１．感染症の流行状況

カリブ海諸国で流行する感染症は赤痢、腸チフスなどの法定伝染病、腸炎ビブリオやサルモネラなどの食中毒、A 型肝炎などが発生しています。

現在、流行している感染症はおおよそ次の通りです。

消化器系疾患	食中毒、細菌性赤痢、腸チフス
その他の疾患	ウイルス性肝炎、性感染症(エイズを含む)、マラリア、破傷風、デング熱、寄生虫疾患

カリブ海諸国の気候は熱帯性海洋気候に属し、平均気温は25～27℃前後と高めですが、比較的過ごしやすい気候と言えます。

主として10～１月が雨が比較的多い雨季にあたり、逆に２～９月頃が雨の少ない乾季となります。この気候は島々によって多少差はあります。

この様な気候ですので食中毒などの消化器系疾患や A 型肝炎などの感染症は、１年中発生していますが、特に10～１月が比較的多いので注意する必要があります。

その他、注意を要する疾患としてマラリアやデング熱などがあります。マラリアやデング熱は蚊によって媒介される熱帯・亜熱帯地域特有の感染症です。これらの感染症を媒介する蚊は雨季と雨季明けに多く発生するため、10～３月に比較的発生が多いようです。

破傷風や性感染症は季節に関係なく１年中見られますが発生数は多くはないようです。特に

破傷風は傷口から侵入し、神経症状を引き起こして重症の場合、死亡する事もある病気ですので注意して下さい。

２．カリブ海諸国での病気予防法

旅行に出かけるとどうしても疲れや飲み過ぎ、食べ過ぎで知らない間に抵抗力が落ちてしまいます。まして暑さが激しいので、特にこの傾向は強いようです。

この様な場合、体に病原菌が侵入すると簡単に病気になってしまいます。この国々には、それ程多くの感染症があるわけではありませんので消化器系の感染症やＡ型肝炎であれば食物や水に注意し、体調を整えておくだけで、かなり病気予防が出来ます。

また、破傷風や性感染症は感染方法が分かっていれば、それだけで予防となりますし、マラリアやデング熱も蚊さえ防げれば感染しません。

３．マラリア情報(ＷＨＯ)

ハイチでは年間を通して300m以下の都市郊外や農村地域に、悪性の熱帯熱マラリアが存在しています。予防薬としては、クロロキンの服用が勧められています。

★ＪＡＩＣＡ任国情報より

＜コロンビア＞

4.　医療

4-1　赴任前の準備

(1)　予防接種

黄熱病の予防接種をしなければならないと古い資料にはあるが、義務づけられてはいない。これらの病気がある場所は辺境のごく一部であり、ほとんど心配はない。

4-3　医薬品など

(1)　携行することが望ましい医薬品

電子体温計、カイロ、正露丸、胃散、氷まくら、ゴキブリホイホイ、虫よけ、その他常備薬は日本より携帯すること。

(2)　任国で調達できる医薬品

国産の薬品が豊富にあり、地方都市でも簡単に入手できる。大都市では一晩中開いている薬局もある。処方せんの有無は重要ではなく、抗生物質も処方せんなしで購入できる。ただし、日本の薬品名と似ているからといって自己処方するのは危険である。ピル、コンドームなども自由に入手できる。

ヘビ毒、狂犬病ワクチンは、国立衛生研究所から全国どこへでも急送される。マラリアやデング熱、アミーバ赤痢など熱帯病に関しては、療法・薬品ともにコロンビアのほうが日本より進んでいる。漢方薬のような生薬の利用もきわめて盛んである。日常の胃痛や吐き気な

どに効く生薬が、市場や大道で販売されている。

(3)　任国で調達できる衛生用品

殆どの衛生用品が入手可能である。

(4)　医薬品を使用する場合の留意点

なるべく医師と相談することを奨める。

13. 治安、緊急時の心得

13-2　強盗、盗難

(1)　一般的治安状況

コロンビアの都市部（サン・アンドレス島を除く）の治安は、最近の失業率上昇に比例して悪化の一途をたどっている。零細農民や都市の失業者が不法占拠している「Invasion（インバシオン）地区」の住民が犯罪の主役となることが多い。犯罪の多くは、スリ、かっぱらい、誘拐、詐欺、脅迫、偽、空き巣狙いなどであり、警察も特定調査はしない。しかし、時には殺人事件も発生しており、その多くは犯罪者同士の利害衝突、警官、裁判官などへの復讐が発端であり、無動機殺人はきわめて少ない。

銃器の入手・所持が比較的容易なため、流れ弾などを受ける危険性があり、十分な注意が必要である。また、日本人はこのような環境に慣れていないため犯罪に巻き込まれやすい。

(2)　防犯対策

b）路上での心得

基本的に6:00以前、22:00以降の外出は避けること。

必要以上に華美な服装で犯罪者を挑発しないこと。犯罪の多い地区へ行く際はデジタルやプラスチックなどの安い時計をつける。装身具も金、ダイヤなどの高価な物、及び、高価に見える可能性のある物はつけない。衣服のボタンは、犯罪者の多い地域では全部かけておく。

人気のない通りは避け、多少回り道でも大通りを歩く。隙を見せず四方に目を配りながら早足で歩くのがよい。現金は必要最少額にとどめて、３～４ヶ所に分散して持ち歩く。

人混みの中には抱きつきスリのグループがいるので、人混みは避けて通ること。

行く手に人相の悪いのが２人以上いるのを見たら、さりげなく大回りをする。

タクシー、自家用車に乗っているときには、暑くても窓を全開にしてはいけない。また、ドアロックをするように心がける。車が止まった瞬間に、腕時計やハンドバッグをひったくられることがあるからである。

番地や時刻を尋ね、立ち止まった隙に襲う手口があるので、一定の距離をおいて歩きながら答える。ショーウィンドーに見とれていたり、車道を横断しようと赤信号で立ち止まっているような時には、周囲への警戒心が薄れるので注意すべきである。

犯罪の多いセントロ（中心街）を歩く場合は、コロンビア人に同行してもらうのがよい。

貴重品はハンドバッグ、手さげ袋には入れず、古新聞や食物の包装紙に入れてさりげなく

持ち歩くこと。札束等を持ってやむを得ず治安の悪いところを通るときは、札束を靴下または靴の中に入れて歩く。

バスに乗る際、発車寸前に後ろから続いて乗るふりをし、ひったくる手口が多い。

市中での高額の支払いは、現金ではなく横線入り小切手かクレジットカードにする方がよい。人目のあるところで札束の勘定をしてはいけない。

武器で脅迫された場合は（たとえ武術の心得があっても）、大声をあげたり抵抗したりすると命にかかわるので、現金のみの財布をすぐ渡してしまう。身分証明書、パスポート、小切手帳、その他の書類のほうが現金よりも損害が大きく、後処理がたいへんである。

写真やビデオを街中で撮影するときは２～３人の同行者とともに行く。これ見よがしに機材をぶら下げて歩くことは厳に慎みたい。早朝ひとりで撮影に出るなどもってのほかである。

＜ベネズエラ＞

4　医　　療

4-1　赴任前の準備

(1)　予防接種

入国に必要な予防接種は特にない。黄熱病、破傷風、狂犬病はできれば接種してきた方がよい。地方に行くと黄熱病の予防接種の証明書がないと、通行を禁止されることがある。

4-3　医薬品など

(1)　携行することが望ましい医薬品

各自自分の健康状態を考え、必要と思われる薬は多めに携行した方がよい。

当国でいちばんよくかかる病気はかぜで、ひどくのどの痛むもの、せきが長く続くもの、下痢や嘔吐を伴うものなど種類が多く、大流行することがあるのでかぜ薬を数種類携行するとよい。

そのほかに食あたり・下痢薬、傷薬、目薬（水泳をする機会が多い）、バファリンなどの鎮痛剤（子供用バファリンも）、じんましんなどアレルギーを抑える薬、化膿止め、子供用乗り物の酔止め薬（日本人学校への通学は、バスで片道40～50分かかるので、酔いやすい子には必要と思われる）、湿布薬（当地では手に入らない）、子供用座薬、胃腸薬、抗生物質の軟こうなどがある。

(2)　任国で調達できる医薬品

銘柄を限定しなければほとんどの薬はある。アメリカ製品をこちらで生産しているケースが多い。ヴィックスドロップ、ベポラップ、消毒用アルコールなどもある。下痢用経口輸液粉末（Parlac または Dralite ）は、薬局で処方せんなしで買える。精製水（Solvcion No.16）、虫ささされ用軟こうなども買える。

(3)　任国で調達できる衛生用品

だいたい手に入る。ニベア、ジョンソン製品、歯ブラシ、歯みがき（コルゲート）、生理用品（アメリカの会社の当地製である。質は少し劣るが、薄型・厚型ともに多種ある。生理帯はない）、タンパックス、紙おむつ（豊富にある）、日焼け止めクリーム（エリザベス・アーデン、クリニーク製品）、ガーゼ、包帯、綿、綿棒は常にある。コンドーム、幼児用歯ブラシは持参するのが望ましい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

飲み薬のほとんどは瓶入りの液体である。乳液のようにみえる飲み薬や、目薬のようにみえる飲み薬などもあるので、くれぐれも注意すること。スペイン語での使用上の注意などはわかりにくく、日本より強く量も多い。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

かかりやすい病気には、次のものがある。

乳児　重症胃腸炎、呼吸器の感染症、アレルギー

子供　呼吸器の感染症、重症胃腸炎、アレルギー、寄生虫

大人　心臓病、高血圧、糖尿病、脳いっ血、胆石、胆のう炎（特に女性に多い）

病気ではないが、流産も多い。

その年にもよるが、雨季（特に 8 月頃）に流感が猛威をふるう。小さな子供は中耳炎を起こすことが多い。水質が悪いためか目の充血に悩まされる人もおり、同じ理由で尿道感染症や膀胱炎もみられる。

食べ物が原因と思われる下痢も多いが、個人差が激しく、何を食べても異常のない人もいれば、いろいろ気をつけていても定期的に下痢を起こす人もいる。ほとんどの場合、それほどひどくなく、薬を使わずに治る。ただ、胃腸の弱い人は長引くこともあるので、自分にあった薬を持参するとともに、口に入れるものには十分注意を払う必要がある。

はしか、百日ぜき、風疹は予防接種が早期に行なわれているので、それほど多くない。

(2) 風土病・伝染病

コレラはほとんどない。マラリア、フィラリア、黄熱病はカラカス市内にはないが、地方には少しみられる。性病、肝炎は多い。結核、狂犬病、ライ病、チフス、ジフテリア、破傷風は少ない。開発途上国のなかでは伝染病は少ない方だが、赤痢は多く注意を要する。

(3) 有害動物、病害虫

市内ではほとんど心配ないが、ごくまれに毒ヘビによる被害がある。万一かまれた時は、かまれた部分の上部（心臓に近い方）を固くしばり、ただちに病院へ行き血清を打ってもらう。血清は毒ヘビの種類によって異なるので、かまれたヘビの特徴（色や模様）を覚えておき、医師に報告する必要がある。

日本人学校付近では、ときどきサソリ、毒ヘビの被害が発生している。サソリは猛毒はないらしいが、ヘビは種類によって牛を殺すくらいの毒のものもいるので、注意を要する。

市内でよくみられるのは、サンクドー（蚊より小さいが、さされるとかゆい）、ハエ、ゴキブリ、ハチ、蛾、ネズミなどである。

13. 治安、緊急時の心得

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

経済の悪化に伴い、治安状態はきわめて悪い。週末にカラカスで発生する殺人事件が20～30件に達することも珍しくない。特に、クリスマスから新年にかけては、飲酒運転による交通事故、けんか、銃の発砲、強盗などによる死者が 100人を超す。

市内の犯罪では、組織的に銀行や会社を襲う強盗団、個人による強盗、空き巣、ひったくりおよび車泥棒がある。強盗団と警官隊との銃撃戦はしばしば発生しており、白バイやパトロールカーは機関銃を持って常時市内を巡回している。

特別な用事がない限り、夜間の外出は控える方が望ましい。左翼ゲリラなどによるテロ事件は比較的少ない。活動は政府軍に抑えられてきわめて低調であるが、コロンビアやブラジルとの国境付近には、バンデーラ・ロッハ（赤い旗）と呼ばれるゲリラ・グループの存在が知られている。むしろ危険なのは、これらの国境沿いに潜伏する麻薬の生産者と、それをコントロールしているマフィア・グループである。特にコロンビア国境付近では警官とこれらのグループとの間で頻繁に銃撃戦が行なわれており、この付近にはあまり近づかない方が賢明である。

(2) 防犯対策

カラカス周辺には、ランチョと呼ばれるスラムが形成されている。このなかには、たとえ車といえども単独では入り込まない方がよい。カラカスでは昼間でもこれらスラムには出入りしない方がよく、夜間のひとり歩きは男性でも注意したい。夜のひとり歩きは危険であり、なるべく車を利用した方がよい。

セントロと呼ばれるカラカス中心部のダウンタウンには、高級店から安売り店まで多くの商店が密集し、またコロニアルスタイルの美しい建物も多く、散歩するのには楽しいところではあるが、たとえ昼間といえども十分な注意が必要である。特に女性はねらわれやすいので、イヤリング、ネックレス、ハンドバッグなどはあまり高価なものを身につけて行かないことが賢明である。最近では住宅地のロス・パロス・グランデス地区一帯でもひったくり、強盗が続発し、日本人も被害にあっている。

被害を最小限にするためにも、大金を持ち歩かないことが大切であり、主な支払いは銀行のパーソナルチェックかアメックスなどのカードで行なうように習慣づけた方がよい。これは日本人ばかりでなく、ほとんどのヴェネズエラ人が実行している。

(3) 被害時の心得

当地では拳銃などの入手が比較的簡単でかつ安価であるため、プロの犯罪者はまず拳銃を

持っていると考えた方がよい。襲われた場合にはまちがっても無駄な抵抗はしない方が無難である。万一強盗に襲われた場合に備えて、相手が納得する程度の現金を常に身につけておいた方がよい。

泥棒、強盗にあった場合には、ただちに司法警察（電話　160）に電話する。

――――――――――――――

以上、様々な情報源によるものを取り混ぜて掲載しました。資料によって矛盾する記述も見られますが、万一を考えて準備して下さるのがよいと考えます。